

# 令和3年度 第1回

## 大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和3年7月30日(金) 16時00分～17時30分

出席者 協議会委員 山崎 彰・三木 俊博・宮坂 政宏・田村 知子・浅田 勝利・吉田 英人  
校 長 平野 裕一  
事 務 局 藤縄 真敬・松本 恵美子・宮野 淳一・安福 一貴

次第

### 1. 校長挨拶

7月20日には、公開授業大会を実施することができた。

現在、教員の資質向上に向けた取り組みのひとつとして、「豊高教員スタンダード」を作成している。

新型コロナウイルスの影響が続いている中、教育活動（行事を含めて）をできる限り行っていきたい。

### 2. 会長挨拶

※会長決定 → 異議なし

この場で、委員の話を直接お聞きし、学校がさらに発展するよう、教員の力が発揮されるようサポートしていきたい。

### 3. 協議・報告

#### (1) 公開授業大会・生徒課題研究発表会 報告

(事務局)

- ・数学の授業では、1年生には難しいと思われる内容を扱ったが、がんばってついてこようとする生徒がいた
- ・英語の授業では、反転授業を取り入れており、授業では音読などの活動がメインだった。その後の研究協議では、知識を与えることと、活動とのバランスについて議論した。
- ・課題研究発表では、3年生の理科1班、文科1班が発表を行った。
- ・パネルディスカッションでは、「みらいの授業」をテーマに、外部から3名の方を招いて行った。録画データは委員の方々に送っておいた。

(会長)

与えるだけでなく、自分で考える、課題を見つけることが必要である。

(委員)

生徒へのアンケートをとったか。

(校長)

通常のクラスで行っているため、流れがある。年に2回行っている授業アンケートで、フィードバックしていきたい。

(委員)

「主体的で対話的で深い学び」を生徒がどう受け止めているかは確認してほしい。

「見方・考え方」が重要。学校側と子どもの側とで違いがあるかと思うが。

(校長)

先生方は、授業をより一層充実したものにしようと工夫している。授業アンケートでは、ICT 機器・発表の機会があるかという項目のポイントは上がっている。形の上でのアクティブ・ラーニングは達成していると考えているが、本質的な「主体的で対話的で深い学び」はどう数値化するべきかは難しい。評価すべき対象物・成果物という観点から議論を始めている（本来なら身につけさせたい力からだが）。

(委員)

評価について、対象物を決めるというのは、現実的な考え方だ。

(校長)

今年度から、定期考査で施行していきたい。生徒に課している成果物から何が読み取れるかを考えていくつもり。

(委員)

公開授業大会に参加して、学校を上げて取り組んでいる熱意に驚いた。

(会長)

単発で終わらず、今後も授業改善をしていく必要がある。また、他教科を見ることで（学校を上げて）全体で取り組むという雰囲気もできるのでは。

(校長)

文科の課題研究では、日本大学と共同研究を行った。教員は、課題研究の専門家ではないので、外部と連携をとっていくことも必要だと考えている。

(会長)

大学とコラボするのはいいことだ。ギフトイドへの取り組みも国から指針が出始めている。

## (2) 新教育課程・観点別評価の実施に向けた本校の取り組み

(校長)

- ・学習指導室において、メンバーそれぞれが新カリの理念を勉強した。教科間で単位数を取り合うのではなく、3年間で達成すべき目標を共有した。
- ・今後、中学校卒業生数が減少していく。2~3年は現状のクラス数、それ以降はクラス減になる。
- ・教員の納得感と、生徒の進路保障について考慮した。文理学科としての縛り（理科は理数科に該当）、社会の「〇〇総合」の新設・受験科目としてどうなるか、情報の取り扱い、芸術の文科のみ1単位増、英語1単位減。
- ・観点別学習状況については、各教科の評価の具体例を、教科を超えて共有し、2学期から試行する。

(委員)

新しい教育課程表は、よく考えて作られた分、素晴らしいものになっていると思う。

大学入試制度との兼ね合いで、大学入試選抜で求められているものと乖離があるのは事実。今後どうしていくのが情報を得ながらやっていってほしい。

(校長)

その乖離を、学校設定科目「〇〇演習」での対応していきたい（1・2年での基礎を踏まえて）。

(委員)

知識を重視するべきかどうかについては、知識がつくようなアクティビティを取り入れていくべき。チャレンジしがいのあることを設定していく必要がある。内化→外化→内化という流れを考えるとよい。

(会長)

高校は大学に合格させることを念頭に置かねばならないため難しいところもある。高校3年間でやるのは大変。中学

とも連携していくことも必要である。

(委員)

昔は自分で見て、自分で書いて、ということが基本だったが、そういったベーシックな部分とどう織り交ぜるのか。

(事務局)

コピーマシンにさせるのではなく、考えるきっかけを与えるようにしている。

(委員)

アクティブ・ラーニングにおいて、「主体的」とは学習に対する自己調整力、学習に向かう意志、学習の見通しのことだが、「深い」に該当する見方・考え方をどう捉えるか。

(校長)

「本当に何を教えたいのか」という各教科の到達目標、3年間の深さと時間軸、を整理して評価していきたい。

(委員)

時間軸という部分では、指導と評価の一体化が問題となっている。3年、6年という長いスパンでどう指導していくか、スパイラルな形での学びをぜひとも。

(校長)

教える側が何を教えたいかを考えることで、到達目標を明確にする。全体の中での位置づけ、この時間(単元、学期)で何を教えるのかを考える必要がある。

(会長)

やることが積み重なっていくが、生徒に自分でやらせるように、先生は外からじっと見ておくことも大切である。

(委員)

今日も通信状態が不安定だが、一人一台端末がきたとき、学習は大丈夫か。

(校長)

府は、一定の増強はすると言っている。

(会長)

大阪教育大学の通信環境はどうですか。

(委員)

安定してできています。

### (3) 豊高教員スタンダードの策定について

(校長)

府の教職スタンダードではもっと細かいが、2校目として豊中高校に赴任した際、こういうところに注意しておくべきというポイントをまとめたものにした。

(事務局)

現在、スタンダードの項目やアンケートの取り方などを検討している。

(校長)

豊中高校では、学年団の印象が強い文化がある。

(委員)

学校はマトリックス組織なので、役割を中心に書いたほうがいいのでは。

この時期にこんなことをする、年次サイクルの中で何をすべきかを明記したマップのほうがいいのでは。

スタンダードだと、教員のライフステージにおける成長というイメージになる。

(委員)

2校目 30代に限定するならスタンダードだが、豊高の中でならマップのほうが適切。成長より、何をやっておかなければならないのか、さらに開発力、チーム力、学校の文化を回していく力など。

(委員)

民間企業では、「～する」ではなく「～できる」を重視しているが、豊中高校の伝統の中でなら「～する」のほうがいいのでは。欲張りすぎるとポイントがブレると思う。

(校長)

次回の運営協議会には、このフォーマットで提示し、議論できればと考えている。

(会長)

みんなでブラッシュアップしていけば、いいものになる。

(委員)

作っておしまいではなく、発展させていけばいい。

(委員)

教員の評価との連動は？

(校長)

それは考えていないが、管理職も異動していく中で、把握しておくべきこととして利用したい。

#### (4) その他

(教頭)

令和3年度 学校経営計画及び学校評価 について：昨年度承認していただいた骨子に数値等を加えたもの

(会長)

以前と比べてよくなっている。画一的ではない形で目標が立てられている。教職員一丸となって取り組んでください。

(教頭)

令和4年度 使用教科書の選定 について →承認